

淡江大學 108 學年度碩士班招生考試試題

系別：日本語文學系

科目：日文(閱讀、作文、中、日互譯)

16-1

考試日期：3月10日(星期日) 第1節

本試題共 3大題， 3頁

請在答案卷上依每大題的題目順序填寫答案

本試題雙面印刷

一. 閱讀 請依題號填寫日文注音(60%)

大雪にもかかわらず、この年末年始は、高速道路の混雑がひどくなかった。渋滞が昨冬より4割減り、長くても30キロほどだった。料金自動払いの車が増えたほか、多くの運転者がピークを避けたらしい。

中日本高速道路によると、これまで最長の渋滞¹は1995年暮れ、名神と東名にまたがった154キロである。帰省ラッシュに雪が重なり、琵琶湖の東から浜名湖の西まで延々とつながった。バブル景気のころは東北道や九州道でも、進まない車列が100キロに及んだ。

さかのぼれば、自動車などなかった紀元前から、渋滞は都市を悩ませてきた。首都大学東京の大口敬・准教授らの研究では、ローマ帝国は馬車の渋滞に苦慮²している。一時カエサルは日中に都心へ乗り入れることを禁止した。その分、夜間の交通量が増え、哲学者キケロは夜の馬車騒音を嘆いた³。

水の都ベネチアでは、ゴンドラの渋滞が問題になった。水路の混雑や事故を減らすため、政府は16世紀、ゴンドラの大きさや形を定めた⁴。車検制度と同じ考え方である。

石油危機の1970年代米国では2人以上が乗る車専用の車線が設けられた⁵。相乗り⁶で朝夕の渋滞を緩和する⁷狙いだが、意外に不評だった。車は個人の足と信じる人たちが、同乗を嫌ったようだ。

渋滞を防ぐため、日本の学界では、高速道路を乗り入れ予約制にしたらどうかという研究も進んでいる。限度に達したら乗り入れを止める。「道路網が整い⁸、100キロ級の渋滞はもう起きない」という楽観論も聞くが、渋滞解消の努力はたゆみなく続けてほしい。

(天声人語より引用)

日本の人口が減っていく。

これまでの予想より2年早く、現実のものとなった。

目の前には、将来に向かって、2本の道が延びている。社会全体が活力を保ちつつ成熟を深める道と、徐々に力を失って衰退⁹へと進む道だ。

先導者はいない。日本の少子高齢化は世界に例のない速度で進行している。

高齢者(65歳以上)が人口に占める割合は20%に達した。一方で、女性が産む子どもの数を示す合計特殊¹⁰出生率は1.289まで低下し、年少者(15歳未満)人口は14%を割った。いずれも先進主要国の中で、最高あるいは最低レベルだ。

直面している状況は、1960年の年齢別人口構成を現在と比べることで、浮き彫り¹¹となる。

60年の人口構成はピラミッド型だ。同じ年に生まれた人が、年齢が上がるとともに病気などで、一定のペースで亡くなっていく。医療も福祉¹²も、まだ十分ではない社会の形で

背面尚有試題

淡江大學 108 學年度碩士班招生考試試題

16-2

系別：日本語文學系

科目：日文(閱讀、作文、中、日互譯)

考試日期：3月10日(星期日) 第1節

本試題共 3大題， 3頁

ある。

翌61年に皆保険・皆年金制度はスタートした。制度を支える現役世代が圧倒的に多く、高齢者は少ないために、低負担・高福祉が可能だった。

現在の人口構成は、ピラミッドの大きな名残を頭にいただきつつ、支える足が急速にやせ続けている。上部の重さに耐え得る社会システムを整備し、根元¹³を回復させることが急務である。

対応を誤れば¹⁴、全体が倒れてしまいそうなほど、不安定な人口構成になってしまうだろう。

【消費税の議論を急げ】

人口構成を見ると、突出しているのは団塊¹⁵の世代(47~49年生まれ)と、そのジュニア(30歳前後)だ。団塊世代は、高齢者とされる年齢の直前にいる。そしてジュニアは、いわゆる“出産世代”の位置にある。

まず、団塊世代が高齢者の仲間入りをする前に、社会保障制度の“脱ピラミッド”を進めなければならない。

60年には、高齢者1人を11人もの現役世代が支えていた。現在は1人の高齢者を支える現役は3人強しかいない。2025年には、ほぼ2人になる。そのころ社会保障給付は、現在の約90兆円から150兆円以上に膨らむ¹⁶、と厚生労働省は予測している。

ピラミッド時代のままに、「負担は現役世代から、給付は高齢世代に」を基本にしていては、社会保障制度は持続できない。負担を社会全体で広く薄く分かち合うことが、どうしても必要になる。消費税率の引き上げに向け、具体的議論をただちに開始すべきだ。

65歳以上の人を、統計用語で「従属人口」と呼んだり、一律に老人、弱者と位置づけることも、ピラミッド感覚の“悪しき因習¹⁷”である。

老若¹⁸を問わず、支えを必要とする人はきちんと支え、意欲や経済力のある人はいつまでも支え手に回る——これからの社会は、そうありたい。

団塊ジュニアが20~30代を過ごす今後10年ほどは、日本が「超少子化国」から脱却できるかどうかの正念場だ。

仕事と子育ての両立に悩み、結婚や出産をためらう女性が多い。夫婦が協力して子どもを育てられるように、勤務時間の短縮・弾力化や育児休業制度の改善が欠かせない。

もう1人子どもが欲しいと思っても、経済的事情であきらめる夫婦も少なくない。子育て中の家庭への支援策が日本は遅れている。

【歴史的転換点にある】

児童手当¹⁹を手厚くするなら、今のように小出しに拡充せず、一ケタ多いほど増額することも選択の一つであろう。施策をよく吟味²⁰し、限られた財源を集中することが重要だ。

子どもがいることを親が嘆くような社会であってはならない。生き生きと幸せに暮らす親子の姿をたくさん見たい。それが次の世代に、子どもを持ちたい、という気持ちを芽生えさせる。

人口減少の始まりによって、日本は歴史的転換点を迎えた。

淡江大學 108 學年度碩士班招生考試試題 16-3

系別：日本語文學系

科目：日文(閱讀、作文、中、日互譯)

考試日期：3月10日(星期日) 第1節

本試題共 3大題， 3頁

社会全体で危機感を共有し、高齢化対策も少子化対策も、全力で取り組むべき時だ。
日本の今後の歩みが、これから少子高齢化が進む他国の道しるべにもなるだろう。あらゆる知恵を集め、活力ある成熟への道を進まなくてはならない。
(〔転機を迎えて〕「活力ある成熟社会を目指せ…超少子・超高齢時代」読売新聞より引用)

二. 中日互譯 1和2為日文翻成中文 3和4為中文翻成日文(20%)

1. 「格差社会」が拡大している、といわれます。かつての「一億総中流」が一部の金持ちと、そうでない人たちとに2極分化し、所得、雇用、教育などに不平等が生じているのだそうです。

心配なのは、格差の広がりにあきらめムードが漂い始め、将来の夢、希望まで捨ててしまう人たちも少なくない、という指摘です。

そんな空気は、一掃したいですね。小さくとも夢は抱きつつ、堅実に、自分の人生を切り開いて行きたいものです。

2. 甘えやもたれ合いの時代が去ったからこそ、これが余計受けたのか。いまは能力や成果を争う「競争」の時代だ。

しかし、それはちょっと嫌な言葉も生んだ。「勝ち組」と「負け組」である。

IT事業や投資ブームの波に乗ったリッチな人々。一方で倒産、失業、リストラ。正社員は減り、フリーターやニートが増える。所得の差は広がり、自殺者は空前の水準。競争と二分化によって生まれる社会のいらだちは、これからの大きな課題に違いない。

3. 一説到那家餐廳的店員，對客人的態度太差。(「～ときたら」を用いて文を作りなさい。)

4. 法律又難又記不住，但必須要知道。(「～ないではすまない」を用いて文を作りなさい。)

三. 作文 請以少子化及高齢化為題，字數不拘。(20%)

「少子化」と「高齢化」について